

ディスコグラフィー掲載

ディスコグラフィー【2018No.99】(HP 掲載)

分類：MQA/UHQCD

作曲家：ブラームス

曲名：ピアノ協奏曲第2番変ロ長調作品83

演奏：ヴィルヘルム・バックハウス（ピアノ）・カール・ベーム指揮ウィーンフィル

発売：Universal Music

No. : UCCG-40010

概要：



発売元のサイトには次のような解説があります。

「**鍵盤の獅子王**」と謳われ、今なお不動の人気を誇るピアニスト、バックハウスによる名盤のひとつがこのブラームスです。バックハウスの揺るぎないドイツ伝統のピアニズムと、往年のウィーンフィルの薫り高い響きが折り重なり、入魂の演奏を繰り広げています。(1967年録音/2016年マスター)

★オリジナル・テープから英 Classic Sounds にて 2016 年に制作した DSD マスターを 352.8 kHz/24bit に変換して収録

★解説付

※本シリーズは当初、DSD マスターを 176.4kHz/24bit に変換して収録する予定で、商品の外装(帯)にもそのように表記していますが、制作段階において、より音質面でのアドバンテージが認められた、352.8 kHz/24bit での収録に変更させていただきました。」

録音年：1967年4月14-18日

録音場所：ウィーン、ゾフィエンザール

収録曲：

ブラームス：ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83

第1楽章: Allegro non troppo

第 2 楽章: **Allegro appassionato**

第 3 楽章: **Andante - Più adagio**

第 4 楽章: **Allegretto grazioso**

BrooklynDAC+の借用期間中であつたので、MQA-CDとして聴くことができました。ディスコグラフィー【2018No.93】から【2018No.96】で報告したMQA-CDは通常のCDとして聴いていましたが、やはりMQAのデコードで聴くと、音質面でメリットが出てきます。

演奏は、バックハウスのどっしりとした構成のブラームスが、ベームの端正な指揮の下のウィーンフィルの流麗な演奏に乗かって進行します。ブラームスの憂いに満ちたロマンチズムを味わうことができる演奏です。

BrooklynDAC+の条件設定には不明の点もあり、機会があれば、十分に理解してから再度聴きなおしてみたいと思います。

以上